

教務部門の職員に期待される役割についての調査

第1次集計結果公表

本調査は、大学において教育の運営事務を担当する教務部門について、その業務の内容、役割を明らかにし、今後の人材開発の方向性についての知見を得ることを目的とするもので、2007年7月から9月にかけて全国すべての国公立大学を対象として実施させていただきました。ご回答いただきました皆さまに、この場を借りて御礼申し上げますとともに、ここに第1次集計結果を公表いたします。

本件お問い合わせ先：

〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学高等教育研究センター内
大学職員研究会（担当：中井、齋藤）

Tel 052-789-5696

E-mail info@cshe.nagoya-u.ac.jp

発送 717件（学部学生を募集している国公立大学、但し名古屋大学を除く）
宛先 教務部門の実状に詳しい、実質的な担当責任者（課長もしくは課長補佐相当職）
期間 2007年7月下旬（発送）～9月11日
回答 215件

設置形態別		学部学生数別	
国立大学	42件	1千人未満	47件
公立大学	29件	1千人以上5千人未満	103件
私立大学	144件	5千人以上	65件

- ・ 次ページから設問ごとの回答状況を掲載しています。
- ・ 回答実数および全215件に占める割合（％）を記しています。
（有効回答割合ではありませんので、ご注意ください。）

パートI 『ティップス先生からの7つの提案<教務学生担当職員編>』について

【問1】 『ティップス先生からの7つの提案』シリーズを、このアンケート調査よりも前からご存知でしたか。あてはまる番号1つに をつけてください。

	はい	いいえ
1. 『ティップス先生からの7つの提案』シリーズがあることをすでに知っていた	117 (54.4%)	97 (45.1%)
2. 『ティップス先生からの7つの提案』にウェブ版があることをすでに知っていた	52 (24.2%)	160 (74.4%)
3. 名古屋大学が以前に開発した『成長するティップス先生』をすでに知っていた	71 (33.0%)	141 (65.6%)

【問2】 <教務学生担当職員編>を一読しての印象についてお尋ねします。それぞれ、あてはまる番号1つに をつけてください。

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
わかりやすい	149 (69.3%)	63 (29.3%)	2 (0.9%)	1 (0.5%)
学生の学習や発達に役立つ	68 (31.6%)	128 (59.5%)	18 (8.4%)	0 (0.0%)
日々の業務改善に役立つ	73 (34.0%)	130 (60.5%)	11 (5.1%)	1 (0.5%)
目新しい内容が多い	5 (2.3%)	113 (52.6%)	90 (41.9%)	7 (3.3%)
必要なことが網羅されている	66 (30.7%)	135 (62.8%)	11 (5.1%)	3 (1.4%)
すぐに活用できる	68 (31.6%)	123 (57.2%)	22 (10.2%)	1 (0.5%)
職員は書かれている内容を実践するとよい	76 (35.3%)	127 (59.1%)	12 (5.6%)	0 (0.0%)
若手職員に一読させたい	114 (53.0%)	92 (42.8%)	8 (3.7%)	1 (0.5%)
職員研修の教材として使えそう	73 (34.0%)	120 (55.8%)	20 (9.3%)	2 (0.9%)
貴大学の職員に受け入れられそう	48 (22.3%)	130 (60.5%)	34 (15.8%)	2 (0.9%)
完成度が高い	49 (22.8%)	140 (65.1%)	23 (10.7%)	2 (0.9%)

【問3 - 1】<教務学生担当職員編>が掲げる7つの提案は、教務担当職員の実践の方針としてふさわしいでしょうか？ それぞれの項目について、あてはまる番号1つに をつけてください。

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
提案1 学生と教職員と接する機会を増やす	124 (57.7%)	88 (40.9%)	3 (1.4%)	0 (0.0%)
提案2 学生間で協力して行う学習を支援する	75 (34.9%)	119 (55.3%)	21 (9.8%)	0 (0.0%)
提案3 学生の主体的な学習を支援する	111 (51.6%)	89 (41.4%)	15 (7.0%)	0 (0.0%)
提案4 学習の進み具合をふりかえらせる	98 (45.6%)	95 (44.2%)	21 (9.8%)	1 (0.5%)
提案5 学習に要する時間を大切にさせる	104 (48.4%)	93 (43.3%)	18 (8.4%)	0 (0.0%)
提案6 学生に高い期待を寄せる	87 (40.5%)	106 (49.3%)	22 (10.2%)	0 (0.0%)
提案7 学生の多様性を尊重する	95 (44.2%)	108 (50.2%)	12 (5.6%)	0 (0.0%)

【問3 - 2】7提案以外に学生の学習・発達支援のために実施すべき提案がありましたら、ご記入ください。

省 略

【問3 - 3】学生の学習・発達支援のほかに教務担当職員に提案したい事柄について、ご記入ください。

省 略

【問4 - 1】提案を実現するための実践のアイデアについてお尋ねします。教務担当職員にとって本質的な業務であると思うものすべてに 印を、業務の本質から外れていると思うものすべてに ×印をつけてください。どちらともいえないものについては無記入としてください。

		×	
提案1	窓口に学生が来たらすすんで声をかけ、用件を尋ねる	192 (89.3%)	6 (2.8%)
	学生の名前をできるだけ覚えるようにして、名前で呼びかける	130 (60.5%)	21 (9.8%)
	窓口のスペースを広く取るなど快適な環境を確保する	178 (82.8%)	8 (3.7%)
	学生が大学や事務職員に求めているものを聞いてみる	158 (73.5%)	11 (5.1%)
	講演会などの学内のイベントに積極的に加わる	97 (45.1%)	32 (14.9%)
	学生や教職員が集うスポーツ大会やレクリエーションを共同で開催する	52 (24.2%)	73 (34.0%)
	名大祭に参加する中で、普段とは異なる形で学生と交流する	70 (32.6%)	49 (22.8%)

提案2	学生がグループで学習できる場所と利用方法などを把握し、適切なアドバイスをする	158 (73.5%)	11 (5.1%)
	学生の学習のために大学内にどのような機器が設置されているかを把握しておく	207 (96.3%)	2 (0.9%)
	TAやチューターの役割を十分に把握し、学生に有効活用を促す	151 (70.2%)	12 (5.6%)
	先輩学生からのアドバイスを希望している学生には、ピア・サポーターなどを紹介する	118 (54.9%)	14 (6.5%)
	学生が何か問題を抱えていそうな時は、他の学生にさり気なく様子を尋ねてみる	97 (45.1%)	32 (14.9%)
	学生間の交流を図るため、身近な学習サークルを支援する	72 (33.5%)	44 (20.5%)
	学内外の他の教職員と相談や情報交換をする場をもつ	169 (78.6%)	11 (5.1%)
提案3	各種研究会やインターンシップなどの情報を学生に積極的に提供する	161 (74.9%)	13 (6.0%)
	学生の目に触れるところに、教員のオフィスアワーの時間帯・場所などの最新情報を提供する	179 (83.3%)	7 (3.3%)
	大学や学部の教育目標やカリキュラムについて教員とともに検討する	184 (85.6%)	8 (3.7%)
	大学における学習について個別に受けた質問を、冊子やガイダンスなどにおける効果的な情報提供に活かす	165 (76.7%)	7 (3.3%)
	ガイダンスの内容や方法を検討し、対象に応じたガイダンスを適切な時期に実施する	198 (92.1%)	2 (0.9%)
	窓口での対応などを通じ、学生に社会人としての常識やマナーを教える	162 (75.3%)	8 (3.7%)
	学生の発達プロセスについての基本的な知識を学ぶ	112 (52.1%)	20 (9.3%)
提案4	履修方法と単位取得状況の確認について、学生の自覚を促す	198 (92.1%)	2 (0.9%)
	教員に対し、学生の学習履歴が的確にわかるような資料を提供する	169 (78.6%)	4 (1.9%)
	学生が投函できる意見箱を設置し、改善の要望を把握する	144 (67.0%)	9 (4.2%)
	授業評価アンケートや学生生活状況調査などの結果を前回と比べ、変化を把握する	179 (83.3%)	4 (1.9%)
	学習に関する調査結果の反映方法について、教員と検討し実施する	155 (72.1%)	8 (3.7%)
	何が改善されたのかについて掲示等により公表する	129 (60.0%)	13 (6.0%)
	調査・分析方法に関する基本的な知識を習得する	139 (64.7%)	8 (3.7%)
提案5	情報は、要点を整理して提供する	179 (83.3%)	4 (1.9%)
	大学から配布された書類を読んだり保存したりすることの大切さを、学生に理解させる	151 (70.2%)	9 (4.2%)

	学生が用件をどこで相談したらよいかをわかりやすくするために、担当する職務内容をカウンターの上等に表示する	149 (69.3%)	9 (4.2%)
	公開研究会、休講情報など、掲示板に貼りだしている情報を、学生がインターネットや携帯電話からも見られるようにする	172 (80.0%)	9 (4.2%)
	時間外学習に有効な学内施設について活用を促す	139 (64.7%)	13 (6.0%)
	他の職員の職務にも興味を持ち、積極的に情報共有を努める	165 (76.7%)	7 (3.3%)
	業務の進め方に関する成功・失敗の事例集を作成し、職員間で共有する	140 (65.1%)	12 (5.6%)
提案6	学生の勉学意欲や課外活動の努力に対し、応援の言葉をかける	154 (71.6%)	8 (3.7%)
	大学の構成員にふさわしい振る舞いを期待する	149 (69.3%)	3 (1.4%)
	学内外での受賞・活躍などの学生の功績を周知し、本人や周囲の学生へのさらなる刺激とする	124 (57.7%)	19 (8.8%)
	学生の優れた社会的活動をサポートする	128 (59.5%)	22 (10.2%)
	卒業生の活躍を積極的に学生に紹介する	106 (49.3%)	31 (14.4%)
	論文コンクールなどへの応募を促す	68 (31.6%)	42 (19.5%)
	学外の協力者に対する礼儀を学生にも求める	128 (59.5%)	14 (6.5%)
提案7	窓口対応では、個々の学生の置かれている立場や経験も考慮する	187 (87.0%)	5 (2.3%)
	学生が抱える問題の内容に応じて適切な機関や専門家などを紹介する	164 (76.3%)	7 (3.3%)
	留学生との異文化交流を希望する学生には、関連するプログラムやサークルなどを紹介する	124 (57.7%)	17 (7.9%)
	社会人学生などの要望に対応できるように、手続きや連絡の方法などを工夫する	159 (74.0%)	5 (2.3%)
	種々の機会を通して、現在の学生の特徴や多様性を理解する	164 (76.3%)	2 (0.9%)
	順調な学生生活を阻害するさまざまな要因を理解し、サポートや環境づくりをする	146 (67.9%)	8 (3.7%)
	教職員の多様なキャリアやワークスタイルを認め、本学が多様性を尊重していることを学生に知らせる	76 (35.3%)	30 (14.0%)

【問4 - 2】7つの提案に添うアイデアで、かつ上記49のアイデアに含まれていないものがありましたら、ご記入ください。

省 略

【問4 - 3】7つの提案には添わないけれど、学生の学習・発達に資するような教務担当職員のアイデアやノウハウがありましたら、ご記入ください。

省 略

【問4 - 4】貴大学の一般的な教務担当職員は、「教務学生担当職員編」に書かれた49のアイデアの何割程度をすでに実施していますか。また、今後、書かれた内容の何割程度を実現するのが理想的でしょうか。以下の下線部それぞれに、「1」から「10」までの整数で割合をご記入ください。

現在、実施している割合 平均4.8割程度 / 今後、実施すべき割合 _____割程度

*「今後、実施すべき割合」については、現在の実施割合を含めた回答と除いた回答とが混在していると見られることから、公表を控えます。ご回答いただきました方には申し訳ありません。

【問5 - 1】『ティップス先生からの7つの提案』シリーズの5冊子全体についてお伺いします。それぞれ、あてはまる番号1つに をつけてください。

	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
気軽に読める内容になっている	169 (78.6%)	44 (20.5%)	1 (0.5%)	1 (0.5%)
優れた実践や知恵が掲載されている	78 (36.3%)	118 (54.9%)	17 (7.9%)	1 (0.5%)
冊子によって、優れた実践や知恵が広く共有できる	75 (34.9%)	117 (54.4%)	21 (9.8%)	1 (0.5%)
取り入れたいノウハウだけ取り入れればよいという形態がよい	71 (33.0%)	106 (49.3%)	31 (14.4%)	3 (1.4%)
ノウハウが7つの簡単な提案に整理されている点が良い	109 (50.7%)	94 (43.7%)	10 (4.7%)	1 (0.5%)
書かれたノウハウが実践的・具体的である	69 (32.1%)	118 (54.9%)	25 (11.6%)	2 (0.9%)
教育改善への意欲を向上させる内容になっている	73 (34.0%)	114 (53.0%)	25 (11.6%)	1 (0.5%)
職種を越えて、教職員が共通に利用できる	79 (36.7%)	118 (54.9%)	15 (7.0%)	2 (0.9%)
学生・教員・職員の三者の役割を明らかにした点が良い	67 (31.2%)	121 (56.3%)	25 (11.6%)	1 (0.5%)
学生・教員・職員の三者の協力によるアプローチが良い	82 (38.1%)	111 (51.6%)	19 (8.8%)	1 (0.5%)
多様な立場の者が協力して大学教育を考えるきっかけになる	88 (40.9%)	109 (50.7%)	16 (7.4%)	0 (0.0%)
7つの提案にそって貴大学の実践や知恵も整理してみたい	51 (23.7%)	133 (61.9%)	27 (12.6%)	2 (0.9%)
冊子の内容がインターネットでも公開されている点が良い	119 (55.3%)	85 (39.5%)	9 (4.2%)	0 (0.0%)

【問5 - 2】貴大学で本シリーズをご利用になる場合、どのような点を修正する必要がありますか。また、どのようなご利用方法が考えられますか。具体的にご記入ください。

省略

【問6】本冊子に対するご意見、改善案等がございましたらご記入ください。

省略

パート II 教務部門の職員の専門性に関するアンケート調査

1. 教務部門の諸問題を審議する全学的組織（例：教務委員会）及び教育課程を検討する全学的組織（例：教育課程委員会）の運営と教務担当職員（教務部門の事務職員）の役割について伺います。

1.1. 当該組織について、あてはまる箇所に役職または年数を記入し、あてはまらない箇所には×をつけてください。

	正式な構成員に職員を含む	組織の長が職員である	組織の長は教員である	教員の構成員は任期がある
【記入例】	役職 学務課長	役職 ×	役職 教育担当副学長	2年
教務部門の諸問題を審議する全学的組織	役職 146 (67.9%)	役職 4 (1.9%)	役職 207 (96.3%)	1年 35(16.3%) 2年 152(70.7%) 3年 5(2.3%) その他 3(1.4%)
教育課程を検討する全学的組織 (上記と同じ組織の場合は、記入不要です。)	役職 145 (67.4%)	役職 2 (0.9%)	役職 208 (96.7%)	1年 33(15.3%) 2年 143(66.5%) 3年 6(2.8%) その他 3(1.4%)

1.2. 当該組織における審議事項原案作成にあたっての教員、職員の役割について、あてはまる箇所すべてに をつけ、必要により括弧内にご記入ください。

教務部門の諸問題を審議する全学的組織	100 (46.5%)	148 (68.8%)	121 (56.3%)	48 (22.3%)	108 (50.2%)	4 (1.9%)
教育課程を検討する全学的組織	53 (24.7%)	74 (34.4%)	66 (30.7%)	19 (8.8%)	58 (27.0%)	1 (0.5%)
	運営的な項目は職員 教育的な項目は教員が作成している	教員は所属学部等のコンセンサスを得る 役割をしている	教員と職員とが一体となって 作成している	教員の発案としているが 実際は職員が作成している	統計データ、他大学の状況に関する項目を 担当している	その他 ()

- 1.3. 当該組織における企画的な（ルーチンではない）審議事項の原案はどなたが作成しますか。あてはまる箇所1つに をつけてください。

	教員	職員	教員と職員の協働
教務部門の諸問題を審議する全学的組織	28 (13.0%)	42 (19.5%)	146 (67.9%)
教育課程を検討する全学的組織	40 (18.6%)	10 (4.7%)	73 (34.0%)

複数回答を含む。

- 1.4. 教務部門に関連した事項を扱う全学的なセンター（例：大学教育センター）がある場合、その名称、役割（教務部門との関連での）、職員構成について、それぞれご記入ください。

70校(32.6%)が当該センターを設置し、そのうち常勤の教員が在籍しているセンターが55校(25.6%)あった。

2. 教務担当職員の位置づけについておたずねします。

- 2.1. 人事異動について、一般的な場合は次のうちどれですか。いずれかに をつけてください。

- a. 本人が希望しない限り教務部門から異動しなくてもよい 2(0.9%)
- b. 学生系など関連部門内で異動する 7(3.3%)
- c. 全学的に異動する 172(80.0%)
- d. その他 33(15.3%)

- 2.2. 教務担当職員が同部門に継続して従事する年数は一般的にどのくらいですか。 _____年間
(同部門内の異動は継続とみなしてください。)

2年 6(2.8%) 3年 46(21.4%) 4年 28(13.0%) 5年 55(25.6%) 6年 11(5.1%) 7年 14(6.5%) ,
8年 1(0.5%) 9年 1(0.5%) 10年 8(3.7%) その他 6(2.8%)

- 2.3. 教務部門の管理職（課長相当）は一般的にはどのような方がなりますか。あてはまるものすべてを選んでください。

- a. 学内の教務担当職員出身者になる 40(18.6%)
- b. 教務担当職員出身者に限らず、職員の職能資格制度にあてはまる者から決まる 66(30.7%)
- c. 学内全体を把握している必要から他部門での経験のある者のうちから決まる 22(10.2%)
- d. 学外から実績のある者を採用する 25(11.6%)
- e. 法人本部の決定した者になる 105(48.8%)
- f. その他 36(16.7%)

- 2.4. 貴学の教務部門における人事異動の仕組みは、教務担当職員がさらに活躍していくという観点から、どのようなメリット、デメリットがあるとお考えですか。

省略

- 2.5. 教務担当職員のなかに、履修相談専門員といったような、自ら判断する権限がある職種がある場合、それはどのような職名及び業務ですか。具体的にお書きください。

省略

- 2.6. 次に挙げる処遇、資格、能力（能力開発の機会を含む）等の項目のうち、あなたが教務担当職員に必要と考えるものはどれですか。また、その中で現在の貴学の教務担当職員にあてはまるものはどれですか。それぞれについて、あてはまる箇所すべてに をつけてください。

	教務担当職員に 必要と考える項目	貴学の現状に あてはまる項目
1. 学内規則で専門職に分類されている	38(17.7%)	6(2.8%)
2. 当該職種に就く資格が決まっている	7(3.3%)	2(0.9%)
3. 教員から専門家と認識されている	95(44.2%)	33(15.3%)
4. 専門の大学院を修了している	5(2.3%)	2(0.9%)
5. 教務部門に特化した学外研修を受けている	124(57.7%)	62(28.8%)
6. 大学行政管理学会等の学会に所属し、研究会に参加している	37(17.2%)	13(6.0%)
7. カリキュラム（特に教養教育関係）について専門的な知識がある	176(81.9%)	83(38.6%)
8. 学生の学習や発達について専門的な知識がある	102(47.4%)	12(5.6%)
9. 教務部門の経験が豊富である	151(70.2%)	100(46.5%)
10. 大学法人会計の十分な知識がある	31(14.4%)	5(2.3%)
11. 大学関係の法令を理解している	192(89.3%)	87(40.5%)
12. マーケティングの専門的な知識がある	15(7.0%)	3(1.4%)
13. パソコン等情報関係のスキルがある	163(75.8%)	118(54.9%)
14. 貴学の教育のミッション（建学の精神）を理解している	164(76.3%)	113(52.6%)
15. 十分なコミュニケーション能力がある	192(89.3%)	114(53.0%)
16. 教員と上手につきあうことができる	182(84.7%)	142(66.0%)
17. 教務部門の業務に継続して従事している	106(49.3%)	79(36.7%)
18. 学生本位で思考ができる	136(63.3%)	91(42.3%)
19. 発想力がある	146(67.9%)	57(26.5%)
20. 企画力がある	162(75.3%)	58(27.0%)
21. 情報収集力がある	162(75.3%)	63(29.3%)
22. 活力にあふれている	137(63.7%)	59(27.4%)
23. マネジメント（経営）能力がある	84(39.1%)	16(7.4%)
24. 学内の諸規則を理解している	196(91.2%)	123(57.2%)
25. 学内他部門の業務を理解している	174(80.9%)	88(40.9%)
26. 統計学についての基本的な知識がある	46(21.4%)	6(2.8%)
27. -29. その他	7(3.3%)	1(0.5%)

上記 2.6. について、質問の意図からは「必要」欄が空欄の場合、「現状」欄も空欄になる。しかし、「現状」に着目して「必要」欄は空欄でも「現状」欄に をつけた大学があった。今回はそのケースも集計に加えてある。

- 2.7. 前問であなたが考えた教務担当職員に求められる処遇、資格、能力等と、貴学の現状が違う場合、その理由としてどのようなことが考えられますか。具体的にご記入ください。

省略

3. 教務担当職員を対象とした研修についておたずねします。

- 3.1. 教務部門を対象とした学外研修に教務担当職員を派遣している場合、その研修名称、研修日数、実施団体をご記入ください。

126校(58.6%)が学外研修を実施していた。

- 3.2. 教務担当職員を対象とした学内研修がある場合、その研修名称、研修日数、研修内容をご記入ください。

35校(16.3%)が学内研修を実施していた。

4. 大学職員を対象とした大学院のコースについておたずねします。

- 4.1. 職員（教務部門以外を含む）に当該修了（在学中）の方がいらっしゃいますか。また、派遣の予定がありますか。あてはまるものを で囲んでください。該当しない場合、設問4.3.へお進みください。

a. 修了者がいる	29(13.5%)
b. 在学中である	11(5.1%)
c. 派遣予定である	2(0.9%)

- 4.2. 修了者には特別の処遇（予定含む）がありますか。ある場合、人事面、給与面等について具体的にご記入ください。記入後は設問5へお進みください。

省略

- 4.3. 職員に当該修了（在学中、派遣予定）の方がいないのはなぜですか。

a. 学内の研修で充分である	5(2.3%)
b. 当該大学院は本学のニーズにあっていない	9(4.2%)
c. 派遣する余裕がない	98(45.6%)
d. 当該大学院のコースとは別の学外研修に派遣している	10(4.7%)
e. その他	40(18.6%)

5. 教務部門において職員がさらに活躍するためには、何が必要だと思いますか。

省略

以上